

トランプ：米軍がいかに多くの国に入り込んでいるか、恥ずかしくて言えない

【訳者注】これについて訳者の言うべきことは、「トランプ：アメリカの中東侵略は〈これまでの最悪の決定だった〉 <http://www.dcsociety.org/2012/info2012/191010.pdf>」で言ったことに尽きる。アメリカ大統領が自国——自国の他党ではない——を告発するというのは、ただ事ではない。彼が、自分の利益を考えているのでないことは、歴然としている。彼が非の打ちどころのない大統領だとは誰も言わない。例えば、外国にいる米軍が、タダでその国を守っている、などという者はいない。沖縄は、土地の供与という多大の犠牲を払っている。

しかし彼がこのイタリア人記者団で、言って聞かせていることは、良心的で常識的な、反米平和主義の、激しいジャーナリストが言っているかのようなものである。しかし、彼が中途半端な常識的評論家より偉いところは、おそらく暗殺を覚悟していることである。彼はどの写真を見ても落ち着いている。自分の身の安全のみを図る者は、こんな態度を取らない。そしてもう一つ、彼の態度の根底にあるのは、神を選ばない者は、サタンを選ぶしかないという決定的な、賢明な判断である。

「アメリカ例外主義」などというものを押し立てて、世界を破壊し虐殺することと、ペドフィリアのような霊肉の破壊や、諸々の腐敗は、不可分のものである。なぜならそれらはすべて、サタンに忠誠を尽くしながら生き延びる手段である。トランプはそれをよく知っていて自信をもっている。今、世界を興奮させているものは、この根源から見た世界情勢である。日本がラグビーで世界を制覇するかという興奮と、非常によく似ているが、それを越えたものが目前に展開している。これほど面白い劇場を閉ざそうとするのが、メディアである。馬鹿者ども！

Tim Hains, RealClearPolitics, <https://www.realclearpolitics.com/>

October 16, 2019

トランプ大統領は、水曜日、イタリア大統領との会見の、10分ほどを使った記者会見で、米軍がシリアを撤退する理由と、それ前に行った「クルド人は決して天使ではない」というコメントの説明をした。

https://www.realclearpolitics.com/video/2019/10/16/trump_the_kurds_are_no_angels_bu_t_they_know_how_to_fight.html

「私は、なぜ、我々はシリアの国土を守っているのかと言っている。なぜ、我々が彼らの国を守るのだ？ そしてシリアもまた、クルド人と関係をもっているのだろうか？ 彼らはついでながら、**決して天使などではない**、いいですか？ 誰が天使かって？ それは周りにいくらでもいる。しかしクルド人はシリアと関係をもっているので、彼らの国境に入り込もうとする。それで彼らは戦おうとする。」トランプはそう言った。「シリアは自分の土地をトルコに取られたくない。それはよくわかる。しかし、それがアメリカ合衆国とどんな関係があるのか——アメリカがシリアの国土で戦っているとしたら？」

「ロシア、イラン、シリア、そしておそらく、ある程度はトルコも、我々と同じように ISIS への憎しみで共通している。そして、それは彼らの世界の一部だが、我々は 7,000 マイルも離れている。私は我々の兵士たちを本国へ帰そうと運動してきた。それが私の今やっていることだ。」

後に彼は言った：——「ご存知のように、我々は多くの国に入り込んでいる。とても沢山の国だ。私は…私は、それがどれくらいの数か、言うのが恥ずかしい。正確な数を私は知っているが、それがあまりにも馬鹿げているから、恥ずかしくて言えないのだ。我々はそういう国家にいて、我々を好きでない国をも保護している。彼らは我々を利用しているが、我々に支払ってはいない、一文も払っていない。」

「そこで一方にシリアがあり、他方にトルコがあって、彼らはどこまでも議論することだろう。もしかすると戦うだろう。我々の兵士たちは、そのために殺されてはならない。ところがもう一つ肝心なことは、彼ら兵士たちが何百年もの間、他人のために戦ってきたことだ。これが何百年も続いているのだ」と彼は締めくくった。

質問：(上とは繋がらない) ありがとうございます、大統領。私はトルコについてお尋ねしたかったのです。エルドアン大統領の決断は、あなたにとって驚きでしたか？ 驚かなかったとして、それでもあなたは、前と変わらず、アメリカ軍を撤退させる決心なのですか？

トランプ大統領：いや、エルドアン大統領の決断には驚かなかった。なぜなら、彼は長年の間、ずっとそれを狙っていたからだ。ご承知のように、彼は長い間、シリアとの国境に軍隊を築いてきた。我々の兵士たちは、その地域からほとんど撤退していた。残ったのはほんの 26 か 28 人だけで、50 人以下だった。たぶん 28 だったと思う。50 人というのはごく小さい戦力だ。

それでも私は全然驚きはしなかった。・・・彼らは何年も戦争をし続けている。それは我々には不自然だが、彼らにはいわば自然なことだ。彼らは戦争を長いこと続け、一

生懸命たたかい、そして長年シリアと戦っている——国境線で。これはシリアとの国境線での話だ。

そして繰り返すが、なぜ、我々はシリアの国土を守るのか？ アサドは我々の盟友ではない。なぜ、彼らの土地を守るのだ？ 彼らはパートナーは招き入れるだろう。ロシアを引き入れることはある。そして歓迎するだろう。ロシアはそれがソ連だった時には、アフガニスタンへ進入した。それからロシアになり、遥かに小さな国になった。アフガニスタンを失ったからだ。拡張し過ぎということはある。やり過ぎということはある。しかし正直言って、ロシアがクルド族を保護して援助するなら、それはよいことだ。悪いことではない。

しかしシリアはそれを導くだろう。そしてシリアは、トルコに自分の土地を取られたくないだろう。それは当たり前だ。しかしそれは、アメリカ合衆国と何の関係があるだろう——もし彼らが、シリアの土地をめぐる戦うとしたら。我々が、我々の盟友でないシリアが土地を失わないように、NATOの一員であるトルコと戦うとはおかしな話だ。

しかしシリアは確かにクルド族と関係をもっている。全員に共通にしているのは、ISISへの憎しみだけである。ところでご存知のように、クルド族の一部である PKK (クルディスタン労働党) は、おそらくテロにおいてより悪辣で、多くの点で ISIS よりもっとテロの脅威を与えている。だからそれは半複雑な状況にある——賢明なら、複雑すぎることはない。しかしそれは半複雑な問題で、それは我々が非常に微妙に支配されているという問題だと思う。

彼らの土地を欲しがっている 2 つの国がある。一つは、かつて自分の土地だったが、今はそうでなくなったもので、なぜなら、22 マイルの幅を要求するからだ。それを彼らは自由の地と言っている。彼らはテロリストを締め出したいからだ。もう一つの国は、これは初めから自分たちのものだと言っている。そしてそれを実現しようとしている。

ところで、そこまで言うおいて、副大統領マイク・ペンスが今、そこへ立とうとしている。あなた方は今夜遅くか明日には帰るでしょう。彼は昨日出発しようとしたのだが、ある安全問題がまだ十分でなかった。彼はわが国で非常に重要な人間だ。だから彼は国務長官のポンペオと同行することになる。我々はすでに、トルコと交渉する代表を用意している。我々はトルコに重い制裁を科している。そして追加の制裁を科したところだ。そしてこれを実行するとき、私は、我々の偉大な兵士たちを帰国させ

るとい保証の上で、それを行った。我々は、これら際限のない戦争を戦う必要がない。我々は彼らをちゃんと帰らせる。それは確かだ。

すると何人かの人々が――それは軍＝産複合体の者か、それより上の者かわからないが――私に待つ (stay) ように言う。私につきまとう問題の一つは、例えば魔女狩りについてくる問題は、私に待ってくれという人々がいることだ。

彼らは私に永遠に戦争をさせたがっている。そして彼らは非常に戦争が上手だ。まさに彼らのやりたいのは戦争だ。沢山の会社が戦争をしたがるのは、彼らの作る兵器が、平和の要求するものでなく、戦争が要求するものだからである。そして彼らは、多くの人々に気を使っている。

私は我々の兵士たちを帰国させたい。我々は警察ではない。我々は戦闘力である。我われは最大の戦闘力をもつ者である。私は、過去3か月近くの間、2.5兆ドルをかけて、我々の軍隊を立て直した。私がそれを引き継いだとき、それはひどいものだった。どうしようもないものだった。それは完全に使い果たされていたのだ。そういうことをご存じだろう。多くの人々がそれを知っている。正直な人は誰でも知っている。

これは何とかしなければならない、と考えていたときに、わが將軍の一人が、私に面会を求めてやってきて、こう言った、「大統領、我々には弾薬がないのです。」私は言った、「あなたが今言ったこと、それは大変なことだ。」いいかね、彼は弾薬がないと言ったのだよ！ それで今は、今までになかったほどに沢山の弾薬がある。ミサイルもロケットも今までより豊富だ。我々の核兵器は全面的にアップデートされ、新しくなった。それを使わなくて済むことを神に願いたい、今我々は、世界で最も強力な核基地をもっている。

しかも我々は前には持たなかったものを持っている。すぐれた現代式軍隊をもっている。しかしそれは、我々がこれを濫用するという意味ではない。これまでのような、キチガイじみた際限のない戦争でやったような、無意味な浪費をするという意味ではない。

そこでトルコとシリアは、願わくは、彼ら自身の間でそれを解決してほしいのだ。願わくは、ISISを保護してやってほしい。私は、ご存知のように、昨日、ある素晴らしい人と話し合った。あるクルド族の將軍だ。私が誰のことを言っているか、あなた方は知っているだろう。あなた方の中には、私がエルドアンに差し出した手紙を見ているだろう。私はそれを彼、エルドアン大統領に与えたのだ。この中にそれを見た人がいると思う。

この将軍に対し私は言った——よく聞いてください、これらの扉を開いてはいけません、そして彼らをおびき出して、これ以上の大破壊を作り出し、我々アメリカが出てくるようなことになってはいけません。なぜなら、その扉のいくつかはすでに開かれているからだ。少々の大破壊 (havoc) と政治的暴露は、アメリカ大統領のために起こそうではないか。(これは、いわゆる泥沼清掃のことと思われる——注)

.....(以下、ほぼ3分の1を省略)